

2013 年 9 月以降のインドシナ半島の多雨について

9 月以降、インドシナ半島の広い範囲で多雨となっており、タイやベトナムでは洪水の被害が発生している。タイのチャオプラヤ川流域での 9 月 1 日以降の積算雨量（10 月 1 日現在）は、2000 年以降では 2005 年に次いで 2 番目に多くなっている。原因は、南西からの湿った空気の流入が平年より多かったこと、台風第 21 号の上陸などである。

1. 天候の経過と被害状況

インドシナ半島では、9 月以降、広い範囲で平年より雨の多い状況が続いており、また、台風第 21 号の影響も加わり各地で多雨となっている。この雨の影響により、タイでは約 300 万人が洪水の影響を受けて、20 人以上が死亡した（タイ政府）。また、ラオスでは 22 万人以上が影響を受け、カンボジアでは 20 人以上、ベトナムでは 40 人以上が死亡した（国連人道問題調整事務所）。

ベトナム中部からラオス南部では 9 月 1 日以降の積算降水量は 500mm 以上となり、ベトナムのドンホイでは 1071mm で 2004～2012 年の 9 月の月平均値（516mm）の約 2.1 倍、ラオス南部のパクセでは 953mm で 9 月の平年（1981～2010 年平均）の月降水量（326mm）の約 2.9 倍の雨となった。タイでは北部のナコンサワン（380mm、平年値：240.4mm）、中部のナコンラチャシーマ（378mm、平年値：228.4mm）で平年の約 1.6 倍の降水量となった（図 1、10 月 1 日現在）。

タイのチャオプラヤ川流域での 9 月 1 日以降の積算降水量は、9 月中旬までは 2000 年以降では 2005、2011 年に次いで 3 番目に多かったが、10 月 1 日現在では 2005 年に次いで 2 番目となった（図 2）。なお、5 月 1 日以降の積算降水量でみると、大規模な洪水が発生した 2011 年が突出して多く、2013 年は 2011 年に比べて約 15% 少ない（図 3）。

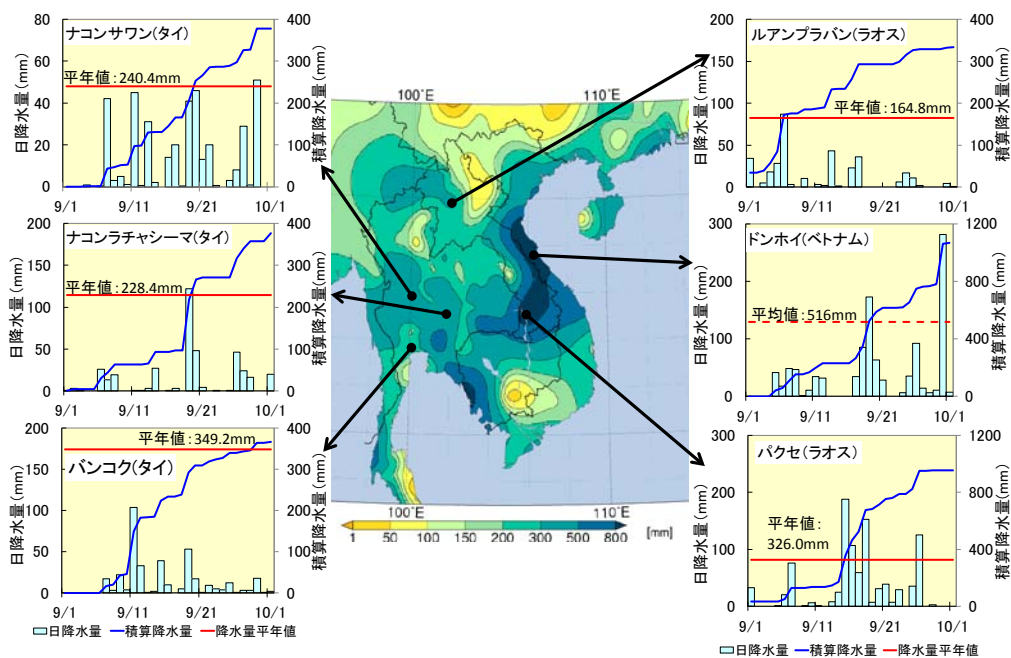


図 1 インドシナ半島の 9 月の降水量 (mm) 及び主な地点の日降水量の経過 (9 月 1 日～10 月 1 日)

水色の棒グラフは日降水量(mm)、青実線は 9 月 1 日以降の日降水量の積算値 (mm)、赤実線は 9 月の降水量平年値 (mm、平年値：1981～2010 年の平均値)、赤破線は 2004～2012 年 (2005 年を除く) の平均値。

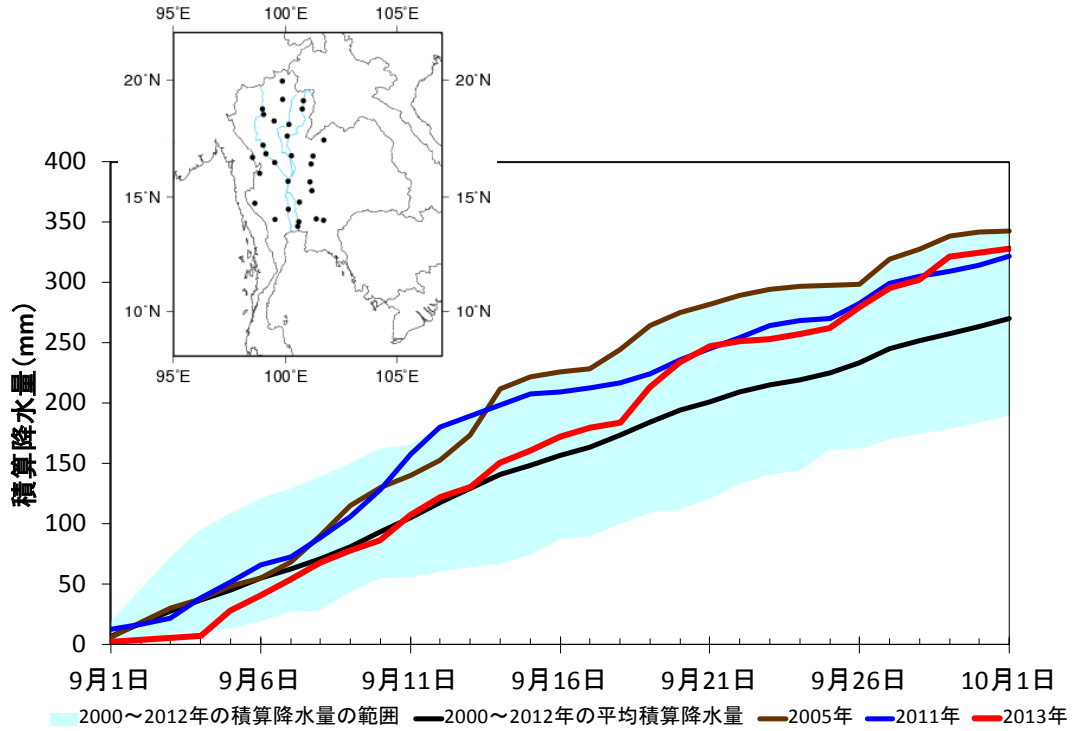


図2 タイのチャオプラヤ川流域の平均積算降水量(9月1日~10月1日)

タイのチャオプラヤ流域の29観測地点(地図の黒丸)から算出した9月1日以降の積算降水量。水色の領域は2000~2012年の最大値と最小値の範囲、赤実線が2013年の値、黒実線が2000~2012年の平均値を示す。参考として、2005年を茶実線、2011年を青実線で示した。

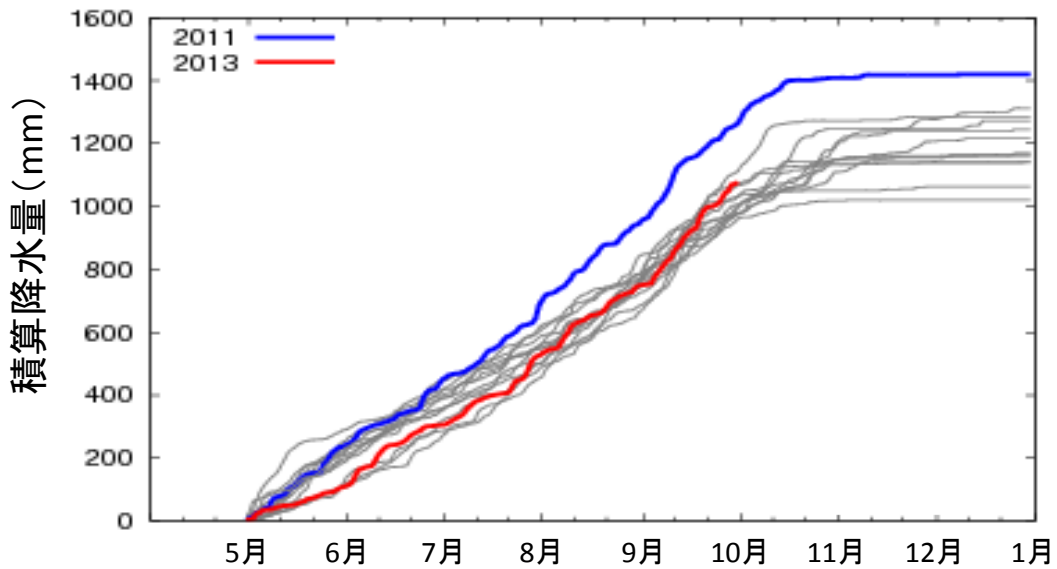


図3 タイのチャオプラヤ川流域の平均積算降水量(5~12月)

図2と同様、ただし5月1日~12月31日まで(2013年は10月1日まで)の積算降水量。赤実線が2013年の値、青実線が2011年の値、灰色線が2000年以降の各年の値(2011年、2013年を除く)を示す。

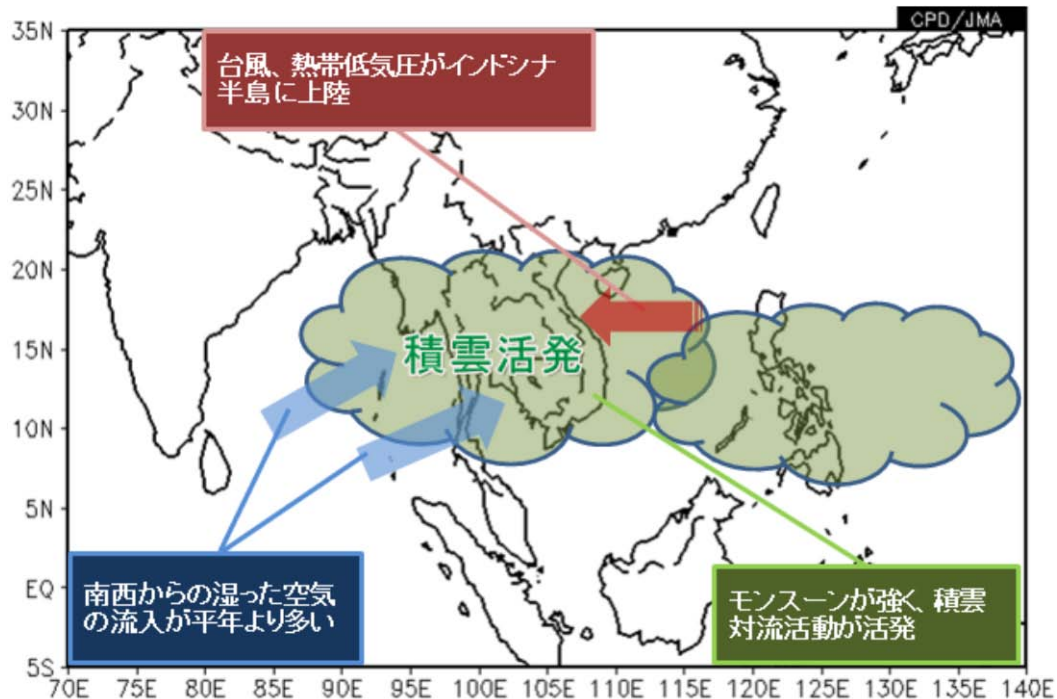


図4 大気の流れの特徴 (2013年9月)

2. 大気の流れの特徴 (図4)

インドシナ半島では、9月以降、南西からの湿った空気の流入が平年より多く、モンスーンの活動が非常に活発となった。これに加えて、南シナ海北部で発生した熱帯低気圧と台風第21号がそれぞれ9月中旬と9月末にインドシナ半島に上陸した。このため、インドシナ半島の広い範囲で多雨となった。

3. 今後の見通し

気象庁の1か月予報モデルによると、インドシナ半島では、今後2～3日の間は対流活動が活発となり大雨となるおそれがあるものの、その後1週間程度は広い範囲でまとまった雨量となる可能性は低いとみられる。

※気象庁ホームページ「世界の異常気象」

(http://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/monitor/extreme_world/index.html)

において、最近の世界の異常気象や気象災害の状況を週、月、季節別にまとめていますので、あわせてご利用ください。

[この件に関する連絡先：気象庁 地球環境・海洋部 気候情報課 異常気象情報センター
03-3212-8341 内線 3158]